

10月30日(月) 第5回教養アップ講座(京都大学学びコーディネーター事業)を開催しました。

今回の講座は、京都大学が高大接続・高大連携活動の一環として、全国的に展開している「学びコーディネーター事業」を活用し、大学院工学研究科建築学専攻の稲田浩也先生をお招きしました。「生成系 AI で変わる建築設計」と題したお話は参加者一同驚きの連続でした。建築デザインのコンセプトをテキストで入力すると、画像生成 AI がものの十数秒で画像を生成し提案してきます。そのデモンストレーションを見せていただき、AI の能力を見せつけられました。「AI が人間の仕事を奪う」とよく聞きますが、まさにこの力をもってすれば人間は足元にも及ばないと感じました。文章をはじめとして、画像、音声、動画生成 AI が普及することで「人間の仕事=人間にしかできないこと」へと大転換すると実感できました。AI を活用することは、すべてを AI が行うのではなく、人間の意志があり、それを超優秀なアシスタントが手伝ってくれるようなものだ、とのお話は、これから私たちの学び方に関わる重要なヒントになっていると感じました。猛烈なスピードで進化する AI をパートナーとして何をどのようにサポートしてもらうのか。課題設定から始まる明確なビジョンを持つこと、AI の力を引き出す論理的な思考と言語能力、使いこなす知恵。つまりは学びの本質を追求することが、AI との共存には大切なのだと「体感」できた1時間でした。

